

木津川右岸運動公園（仮称）整備計画策定に向けた提言

平成16年3月

木津川右岸運動公園（仮称）整備計画検討委員会

はじめに

木津川右岸運動公園（仮称）は、2002年ワールドカップサッカーが開催できる運動公園として平成7年度に都市計画決定し、事業に着手されましたが、日韓合同開催等の関係もあり会場候補地から落選しました。

その後、スタジアムの規模縮小を検討するとともに、幅広い府民が利用できる公園として整備の方向性を模索しながら用地買収等が進められてきたところではありますが、社会経済情勢の変化や府民ニーズの動向等新しい時代の流れを見据えながら、整備計画の抜本的な見直しを行うため、公園、スポーツ、防災、環境等の各専門家やNPO、地元関係者等による整備計画検討委員会が設置され、平成15年6月から5回にわたり検討を重ねてきました。

まず、本公園が位置する城陽市の東部丘陵地につきましては、第二名神自動車道のインターチェンジや近接して京奈和自動車道とのジャンクションも予定されており、木津川右岸地域の中心地として発展する可能性を持った地域であり、公園整備計画検討に当たっては長期的な視点に立って様々な観点から十分検討するとともに、現段階では第二名神自動車道が不透明な状況であることを踏まえ、将来の環境変化や時代のニーズに柔軟に対応できるように配慮することが重要であります。

また、この地域は高度経済成長期の近畿圏における砂利供給の中心を担ってきた結果、400ヘクタール以上に及ぶ山砂利採取跡地が残され、自然環境や景観の荒廃が問題となっています。城陽市においては「城陽市東部丘陵地利用計画」が策定され、新しいまちづくりの検討が進められていますが、本公園は、緑の再生と自然環境との共生を目指したこの新しいまちづくりの先導的な事業として期待されていることから、自然再生が本公園の整備にとって重要なテーマであり、府民や多様な主体の参画・連携による緑豊かな公園づくりが望まれます。

次に、本公園に計画されていた3万人規模スタジアムの建設については、国内のスタジアムの立地条件や収支状況等から判断して困難であるとの結論を得ましたが、府立山城総合運動公園や城陽市総合運動公園等スポーツ施設の集積地という条件を活かし、相互の連携や機能分担を図りながら子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめ、多様なレクリエーションニーズに応える公園を目指すべきと考えます。

また、本公園は京都府南部地域の発展に寄与する公園として期待されており、年間を通じて多くの利用者で賑わい府南部地域の振興や活性化につながる個性豊かな魅力あふれる公園づくりが求められています。

このほか、震災時等には高速道路等アクセス条件の整った本公園は、府民の安心・安全を確保する広域的な防災拠点として期待されています。

以上のように本公園には多くの機能が求められており、計画の立案に当たっては、これらの多種多様な機能を一般的な平面的配置ではなく、公園全域で自然再生を推進していくことを基本とした各空間の重ね合わせを行うことにより、複合的な機能を有する公園づくりを目指すべきと考えます。

これらの検討結果に基づき、本公園の整備計画策定に向けた提言を以下のとおり取りまとめました。この提言を踏まえて、多くの府民に利用され、愛される公園として整備されることを要望します。

なお、整備方針の見直しにより、本公園の名称については、「運動公園」よりも、新たな公園のコンセプトにふさわしい名称への変更を検討されることが適当と考えます。

1 新たな整備方針について

(1) 公園づくりの方向性

提言： 山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園
計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園

(2) 空間利用の考え方

提言： 子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園
多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園
多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園
安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園

(3) 施設計画の考え方

提言： 将来の環境変化や時代のニーズに柔軟に対応できる公園

2 公園計画の立案手法について

提言： 空間の重ね合わせによる複合的な機能を持った公園計画

目 次

はじめに

1 新たな整備方針について

(1) 公園づくりの方向性

山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園	1
地域の特性を活かした自然再生をはかる	
山砂利採取地の歴史を物語る独創的な景観を創出する	
計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園	4
府民活動の拠点となる仕組みを検討する	

(2) 空間利用の考え方

子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園	8
生涯スポーツの推進を目指す	
多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園	11
多様なレクリエーションニーズに応える	
多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園	12
個性豊かな地域のシンボルを創る	
安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園	13
京都府南部地域の防災計画を検討する	

(3) 施設計画の考え方

将来の環境変化や時代のニーズに柔軟に対応できる公園	15
柔軟性と発展性を備える	

2 公園計画の立案手法について

空間の重ね合わせによる複合的な機能を持った公園計画	17
---------------------------	----

整備方針イメージ図(参考)	19
---------------	----

<参 考>

- 事業地の概要
- 計画の推移
- 委員会の検討経緯
 - 3万人規模スタジアムの検証
- 委員会の構成

注)本文中の特記なき写真は全て事務局の撮影による。

1 新たな整備方針について

最近の社会経済情勢の変化やスポーツ需要の動向を踏まえて本公園を抜本的に見直すに当たって、まず、北側部分に計画されていた3万人規模のスタジアムについて検証しましたが、国内のスタジアムの立地条件や利用・収支状況等から判断すると管理運営は極めて厳しい状況にあり、困難であるとの結論を得ました。このため、南側部分も含め公園全体を対象とした新たな整備方針を以下のとおり取りまとめました。

(1) 公園づくりの方向性

山砂利採取跡地の自然再生と緑豊かな公園

本公園が位置する城陽市の東部丘陵地は、近畿圏の砂利供給の中心を担ってきた反面、400ヘクタール以上に及ぶ山砂利採取跡地が残され、自然環境や景観の荒廃が問題となっています。城陽市においては、「城陽市東部丘陵地利用計画」が策定され、新しいまちづくりが検討されており、本公園は山砂利採取跡地の緑の再生と自然環境との共生を目指したまちづくりの先導的な事業として期待されています。

本公園の整備に際しては、山砂利採取跡地の自然再生を土台にして、地域の歴史や文化を踏まえた里山の復元や特色のある森づくり等、多様な主体の参画・連携による緑豊かな公園を目指すことが望めます。

また、山砂利採取跡地における崖地や谷地形など特異な地形を活かしたりクラメーション（荒廃地の再生・利用）を取り入れ、特色ある公園を目指すことが望めます。

山砂利採取地現況図



(日本道路公団大津工事事務所パンフレット及び
城陽市基本構想資料編-平成4年3月-より合成)

地域の特性を活かした自然再生をはかる

みどりは、まちの安全性や自然性を高めるなど多くの役割を持ち、人が快適な生活をおくる上で欠かせないものであり、わが国の社会全体が成長型から安定・成熟型へと転換しつつある中で、特に、里地里山など身近な自然に対する国民意識が急速に高まっていると言われています。

本公園の整備にあたっては、山砂利採取跡地という立地条件、地域の歴史や文化から地域の個性や素材を見つけ出し、それらを活かした森づくり等、府民参画（手づくり）による自然再生を行うことが重要で、人と自然の関わりを回復することが、人の活動を豊かにし、快適でいきいきとした魅力ある地域づくりに寄与するものと考えます。

例)・地域の自然資源の活用

- ・地域における経験や実績に基づく植栽計画
- ・農薬の使用の削減につながる植栽計画



イメージ写真：

足尾銅山の住民参加による自然再生

(出典：「ネルシス」東洋エクステリア㈱)



イメージ写真：国営明石海峡公園



国営明石海峡公園：

土採り場跡地を植栽した法面と
その近景（写真提供：吉田博宣）

山砂利採取地の歴史を物語る独創的な景観を創出する

ブッチャートガーデン（カナダ）、ピュットショーモン（フランス）、石山緑地（札幌）等では岩の採掘跡地や処理場跡地の景観を活用した庭園や公園が造られています。

山砂利採取跡地を地域の資源と捉え、現地形の一部を残し、その歴史を情報発信するなど特色ある公園を造ることにより、集客と賑わいの創出が期待されます。

《事業地の現況とリクラメーションの事例》



ブッチャートガーデン（出典：ブッチャートガーデンホームページ）



ビクトリア市（カナダ）郊外にある石灰岩採掘場跡地を利用した約20haの私庭園。現在は、年間を通じて花が咲き誇る庭園として、観光地としても人気を博している。サンクンガーデンの景は特に有名。

ピュットショーモン（写真提供：吉田博宣）



石灰岩採掘場の後、処刑場や屠殺場として利用された後、公園として整備された、都市再生の先駆的な公園。現在は公共公園として多くのバリ市民に利用されている。

石山緑地



札幌軟岩の採掘跡地約12haを公園化したもので、特異な景観を活かしている。公園の設計、施工に当たっては地元彫刻家とのコラボレーションによるもので、優れたデザインとなっている。

計画から整備、管理運営まで府民参画により府民が育てる公園

近年、労働時間の減少や高齢化の進行と共に豊かな余暇の過ごし方のひとつとして、ボランティア等による府民参画のニーズが高まっています。また、地域住民やNPO法人が計画から整備、管理運営まで一貫した公園づくりに参加するなどの事例が現れてきており、海外においては、住民の組織する委員会が独立採算で管理運営を行い、美しい公園として親しまれている事例もあります。

今後は、補助金や委託金頼みで管理運営するという考え方から、住民が管理運営から経営まで携わり、公園という資源を活かしていかにより自立的な管理運営をするかという考えに移行していくのがよいと考えます。

本公園においても、自然再生の森づくりなど府民や多様な主体の積極的な参画と連携、責任ある利用の下で公園づくりや管理運営が行われていくことが望まれます。

府民活動の拠点となる仕組みを検討する

地域の多様な主体の参画と連携による公園づくりや管理・運営を行い、自然再生の先導的な場を活用した森づくり等の活動を通じて、南山城地域の山林を守り育てる活動の形成の検討をすることや、ボランティアマネジメントの養成やボランティア育成、ストーリー性を持った府民参画ソフトメニューの検討が望まれます。

例)・行政主導型でない府民参画による自主的企画運営型のモデル地

- ・誰もが気軽に参加できるプログラムや参加しやすいシステムの検討
- ・森づくりの核となる組織づくりや活動支援の検討
- ・果樹オーナー制など、年間を通して公園を訪れるきっかけとなるソフトメニューの検討
- ・借りた用具をきちんと手入れして返すといったような使う側の責任



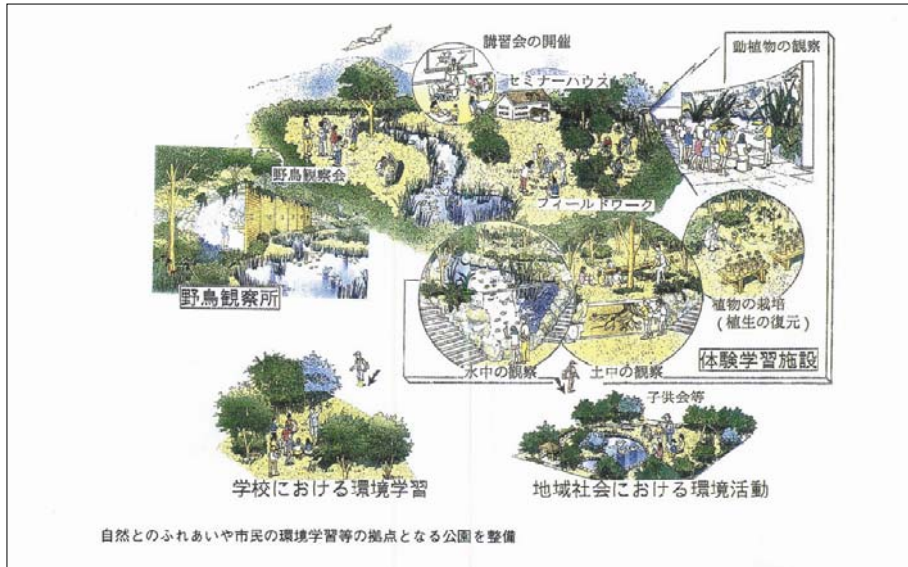
イメージ写真：住民参加による公園整備
(出典：河辺いきものの森 パンフレット)



イメージ写真：住民参加による公園整備



イメージ写真：
住民参加による花壇づくり



イメージ図：環境ふれあい公園のイメージ
 (出典：建設省「グリーンプラン2000」)

体験型プログラムの例

- ・環境学習プログラム：野外遊びなどを通じた環境教育 等
- ・自然観察会：森林観察会、野草観察会、きのこ観察会、野鳥観察会、昆虫採取 等
- ・野外体験活動：キャンプ、飯ごう炊さん、ロープワーク、ネイチャーフィーリング 等
- ・オリエンテーリング、ウォークラリー 等
- ・フィールドアスレチック、ネイチャーゲーム 等
- ・森づくり活動、自然生態園づくり、ドングリ広場づくり(ドングリ銀行) 等

《行政と市民団体による公園運営の事例》

オグルベイ公園 (Oglebay Park, Wheeling, West Virginia)

- 「庶民のためのカントリークラブ」、「アメリカの市立公園のモデル」 -

(出典: 『斜面緑化研究第5号』(1983年) - アメリカの2, 3の造園作品の紹介 - 吉田博宣)

- ・ホイーリング市郊外につくられた約680haの市立公園で、オグルベイ氏の農場であった土地を彼の没後『公共レクリエーションと教育の目的に使う』意図で、ホイーリング市に寄贈されたもの。
- ・公園の計画・管理・運営は、行政の組織であるホイーリング市公園委員会 (Wheeling Park Commission、以下WPC) と、市民協会のオグルベイ協会 (Oglebay Institute、以下O.I) によって行われている。

役割; WPC - 施設計画、維持管理 O.I - ソフト運営 (教育・文化関係のプログラムを作成)

- ・公園は有料施設と無料施設が混在しており、その施設利用料と寄付とで公園予算の殆どが賄われている。
- ・公園の計画やデザインについては、ウィギントン博士 (Dr. Brooks Wigginton) が比較的早い段階からデザイン管理をしていたことにより、統一したデザインポリシーが保たれている。

- 公園化までの経緯 -

1906年 オグルベイ氏没

氏の農場をホイーリング市に寄贈 (約340ha)
(市は財政困難な状況にあった)

1928年 公園として受入

管理はWPC (1925年設立)

1930年 O.I設立

WPCとO.Iとが公園の計画・運営・管理を行う事となった



パトソンセンターからの眺望
~ マンションミュージアムの庭園からの眺め



マンションミュージアム
~ オグルベイ氏の主館を保存し、家具や調度を展示している



“GOOD ZOO”
~ 動物園の家畜舎

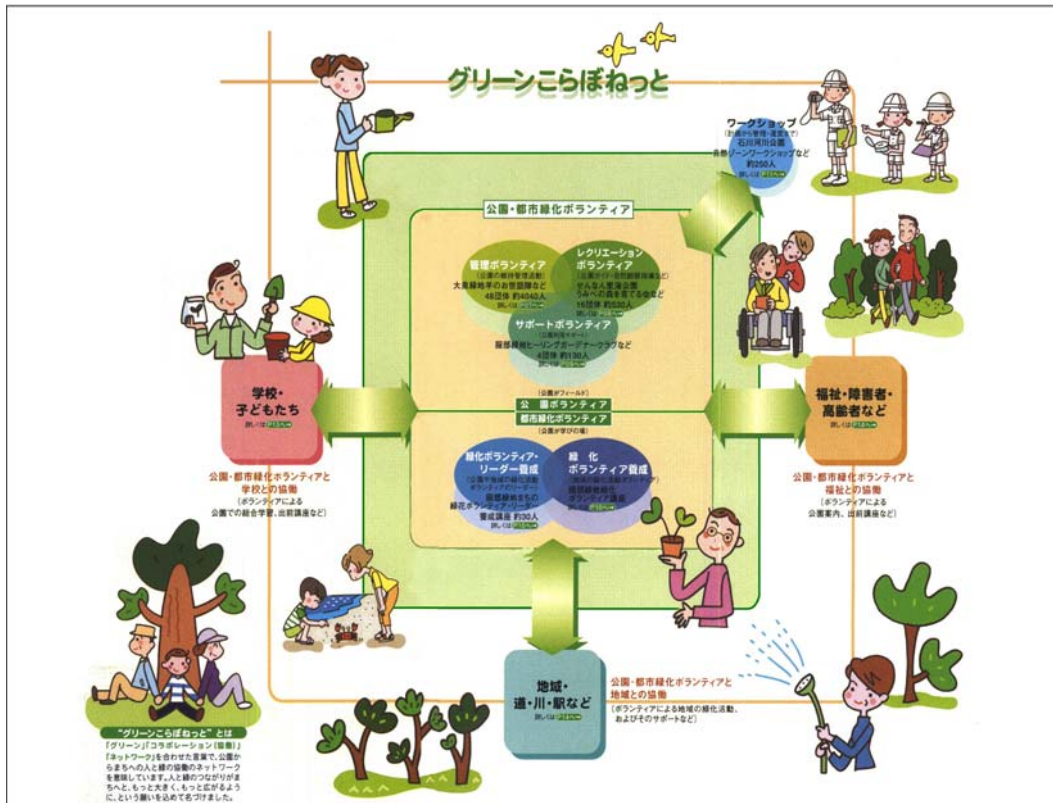
(写真提供: 吉田博宣)

・公園内の主な地区及び施設

パトソンセンター (マンションミュージアムや野外劇場、庭園などが保存)、ウィルソン・ロッジ (リゾートホテル)、樹木園、子どもセンター、子ども動物園、水泳場とクリスピン・センター (スポーツセンター)、テニスコート、ゴルフコース、スキー場、乗馬場、ピクニック場、展望所など

- ・公園全体は樹林に囲まれており、主要な施設毎に駐車場が併設されている。

《協働による公園づくりの事例》



▲ “グリーンこらぼねっと” 組織図



▲ 管理ボランティアによる維持管理活動



▲ レクリエーションボランティアによる活動

(出展：大阪府「グリーンこらぼねっと」)

(2) 空間利用の考え方

子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽にスポーツを楽しめる公園

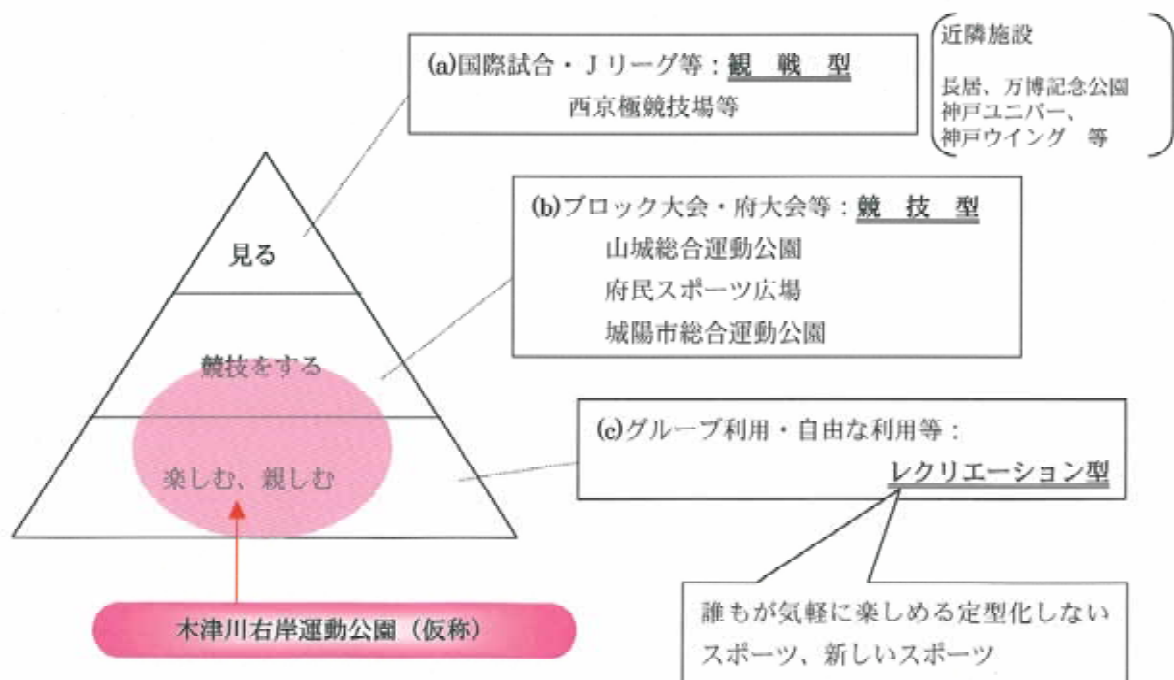
府立山城総合運動公園等のスポーツ施設の集積地という条件を活かして、公園相互の連携や機能分担により全国的にも例を見ない一大スポーツ・レクリエーションゾーンの形成を図ることが期待され、本公園においては、とりわけ生涯スポーツの推進に重点を置き、子どもからお年寄りまで幅広い府民が気軽に楽しめる環境を創出し、ニュースポーツや幼児期から少年期にかけてのスポーツにも対応できる公園を目指すことが望まれます。

生涯スポーツの推進を目指す

府立山城総合運動公園、府民スポーツ広場、城陽市総合運動公園等のスポーツ施設と相互の連携や機能の役割分担を図ることにより、一大スポーツ・レクリエーションゾーンを形成することができます。

様々な健康不安や子どもの体力、運動能力の低下が指摘されており、現在の府民ニーズからも、芝生グラウンドや気軽に利用できる広場が望まれています。

本公園においては、誰もが身近にいつでもスポーツに親しめる環境やフィールドスポーツを中心としたアマチュアスポーツの裾野を広げることができる環境を創出し、子どもからお年寄りまで、幅広く府民の生涯にわたるスポーツを推進することが求められています。



本公園においては、上記の (b) + (c) に供する施設空間の整備を図ることにより、スポーツ・レクリエーション需要の底辺の拡大と充実に供し、同時に山城総合運動公園等との役割分担を図る。また、相互に連携を図ることにより、スポーツゾーンとしての完結化を図る。

生涯スポーツ社会を目指し、スポーツ環境の整備を図るには、この (c) に対応する施設空間の整備と運営が最も大切であり、“スポーツゾーンの形成”には、この点が不可欠である。

- 例)・ニュースポーツをはじめ多彩な楽しみ方のできる大小様々な多目的芝生広場
- ・散策路やジョギングコース
 - ・総合型地域スポーツクラブ育成の推進（生涯スポーツを通じた地域コミュニティづくり）
 - ・中高校生までを対象としたアマチュアスポーツの裾野を広げる環境整備
 - ・総合球技場を中心に種目を限定しない空間づくり
 - ・多面多様な利用の出来る平坦な大芝生グラウンド
 - ・コートコンプレックスエリアを設け、フットボールを中心とするスポーツエステート
 - ・稼働率の向上が期待でき、技術開発が著しい「人工芝」の導入
 - ・周辺施設と連携した京都府規模の大会、全国スポレク祭の開催やスポーツ合宿利用



イメージ図：
生涯スポーツや多様なレクリエーションに
供する芝生広場



イメージ写真：国営昭和記念公園



イメージ写真：シュタットパーク
(ドイツ)





イメージ写真：宝ヶ池球技場



イメージ図：コートコンプレックス



イメージ写真：Jヴィレッジ
 多面のコートを配置した事例
 （出典：株式会社 日本フットボールヴィレッジ）

新たな人工芝の開発

旧

新



（サンプル提供：田中偉晃）

多様なレクリエーションニーズに応え、交流の輪が広がる公園

仲間や家族との交流、子どもの遊び場、散策等に利用でき、美しい景観を愛で・憩うことのできる緑や水が豊かで快適な空間を求める社会的なニーズが高まっています。

このため、幼児から高齢者、家族連れが気軽に安心して楽しむことができ、多様なレクリエーションニーズに応える大芝生広場や木立、水辺空間を創出し、交流の輪が広がる公園を目指すことが望まれます。

多様なレクリエーションニーズに応える

最近のレクリエーションは、ハイキング、野外活動、水遊び、散策、読書、日光浴等多種多様に広がっており、これらのニーズに応えることができ、幅広い府民が集える空間の創出が求められています。

例)・自由に安心して遊んだり、交流することができる緑に囲まれた広大な芝生広場

- ・木漏れ陽の中を散策したり、木陰で読書ができる空間
- ・せせらぎや流れのある水辺空間



イメージ写真：武蔵野中央公園
(出典：武蔵野中央公園管理事務所)



イメージ図：水と緑豊かな公園



イメージ写真：国営木曽三川公園
(河川環境楽園)

多くの利用者で賑わい、地域の振興に寄与する魅力あふれる公園

本公園は京都府南部地域の振興や活性化につながる事業として期待されており、「ここにしかないもの」、「ここでしか体験できないもの」等個性豊かな地域のシンボルとなるものがが必要です。

府民参画による自然再生や山砂利採取跡地の特異な地形を活かした景観創出、広大な芝生広場のほか、この地域の特性や歴史を活かした『名所づくり』や各種プログラム等を整備し、一年を通して多くの利用者で賑わう魅力あふれる公園を目指すことが望まれます。

個性豊かな地域のシンボルを創る

施設整備、空間創出、プログラム整備などの面から、個性豊かな地域のシンボルを創ることにより多くの利用者で公園が賑わえば、周辺の商業施設への流動や地域産業、観光等への波及効果も期待できます。

例)・全国のモデルになるような自然再生

- ・山砂利採取跡地の特異な地形を活かしたリクレーションによる景観創出
- ・多面数グラウンドや人工芝グラウンド
- ・この地域の縄文時代から続く人の営みや、万葉集にも謳われた歴史文化の発信

「白鳥の 鷺坂山の松蔭に 宿りて行かな 夜も更けゆくを」(作者：柿本人麻呂)

「たくひれの 鷺坂山の白つつじ われににはほはね 妹にしめさむ」(作者：絹)

- ・地域の特色を表象する「ウメ」等をテーマにした名所づくり
- ・造りながら自然が再生する経過等を勉強する環境学習の場(自然観察会等)
- ・地域特産物の出張販売や農産物の食べ頃情報などの情報発信拠点として活用
- ・季節にあった体験プログラム



青谷梅林・梅まつりの模様



事業地周辺の梅畑



イメージ写真：地域特産物販売

安心・安全を確保する広域的な防災の機能を持つ公園

阪神・淡路大震災以降、西日本は地震活動期に入ったと指摘されています。京都府南部地域には花折断層や黄檗断層系、西山断層系、木津川断層等多くの活断層が存在しています。ひとたび直下型地震が起きれば、要員の集結所、支援物資の集配施設やそれを賄える広いスペースが必要となります。しかし、京都には公共の大規模空地が少なく、高速道路等アクセス条件の整った本公園は防災拠点として適地であり、府民の安心・安全を確保するため、山城総合運動公園と連携した広域的な防災機能の充実が望まれます。

京都府南部地域の防災計画を検討する

西日本においては、東南海・南海地震の発生にあわせて地震活動が活発化する傾向があり、阪神・淡路大震災以降、西日本が地震の活動期に入ったと指摘されています。

京都、宇治、城陽、久御山の周囲には花折断層や黄檗断層系、西山断層系、木津川断層系等多くの断層が存在していることから、地震発生に対し、万全を期する必要があります。

防災施設は利用頻度としては低いものでありますが、特に京都市内には大規模な空地が少なく、被災地へ応援物資を供給するためには、高速道路のアクセスの良い場所に要員の集結所を確保し、支援物資の集配機能を有する出来るだけ広い場所が必要です。

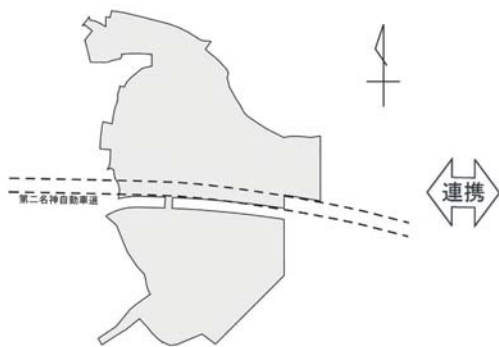
例)・要員の集結所や物資の集配機能の確保

- ・山城総合運動公園の防災機能との連携方策
- ・武力攻撃事態等の有事の際における本公園の役割の検討（国民保護法制）

注) 国民保護法制とは、平成15年の通常国会で有事関連3法案が成立した際に、1年以内に整備するよう付帯決議がなされてきたものであり、武力攻撃事態等における国、地方公共団体等の責務、国民の協力等に関する事項を定めることにより、国全体として万全な態勢を整備し、国民の保護のための措置を総合的に推進するための法制度。

木津川右岸運動公園（仮称）

約34.4ha



山城総合運動公園

約100ha



防 災 機 能

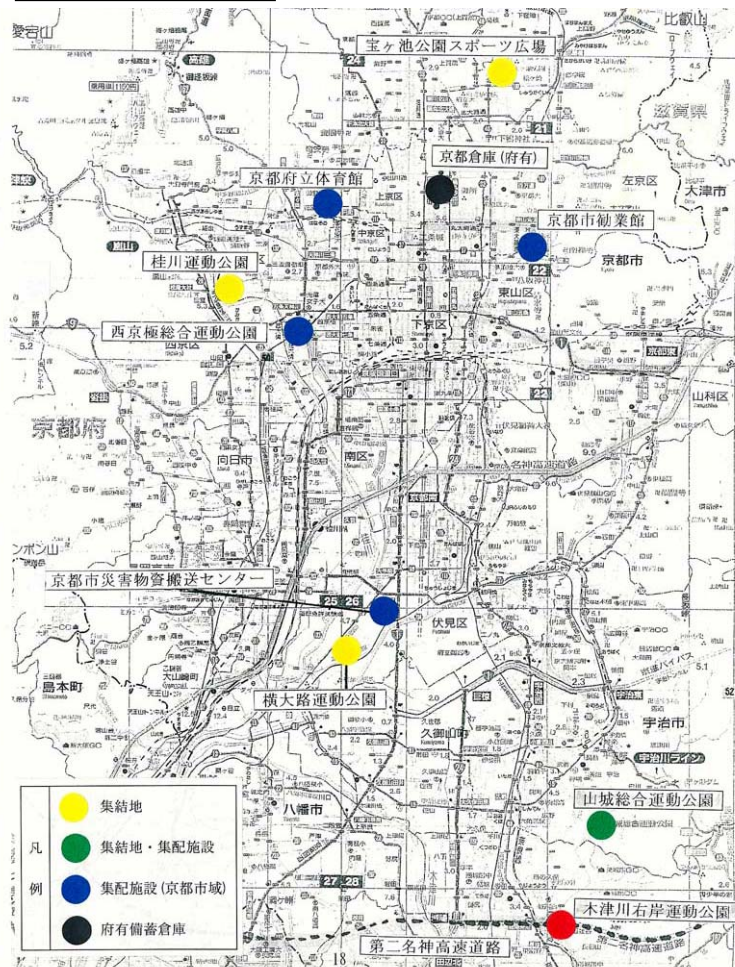
○屋内集配施設	: 体育館
○トラック集配スペース	: 体育館前園路 公園駐車場 中央広場 等
○ヘリポート	: 陸上競技場
○その他付随施設	(耐震性貯水槽、太陽電池式園路照明等)

活断層図



(京都府地震被害想定調査-平成9年度-における想定地震モデル位置図より転写)

防災関連施設の配置図



(京都府・京都市防災対策協議会における確認事項より作成)

(3) 施設計画の考え方

将来の環境変化や時代のニーズに柔軟に対応できる公園

本公園の中央部には第二名神自動車道が計画されていますが、国幹会議の報告では『抜本の見直し区間』になるなど、現段階では極めて不透明で不確定な要素があることから、公園北側部分については、第二名神自動車道の動向やそれに伴う山砂利採取跡地の土地利用計画の進展など、将来の環境変化や時代のニーズに柔軟に対応できる公園を目指すことが望まれます。

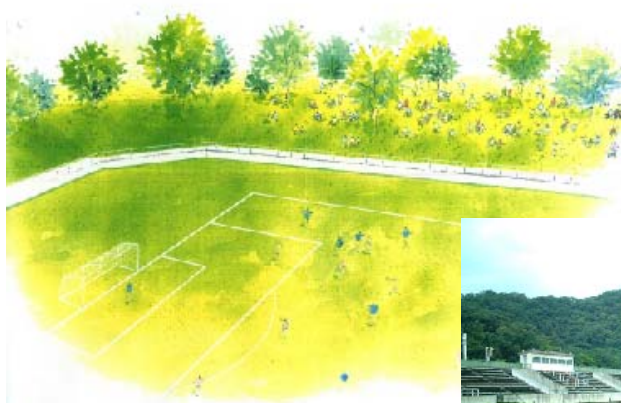
柔軟性と発展性を備える

本公園が計画されている城陽市東部丘陵地は、第二名神自動車道のインターチェンジや、近接して京奈和自動車道とのジャンクションも予定されており、広域幹線交通の拠点として開発のポテンシャルが高く、京都府南部地域の中心地として発展する可能性を持った地域であると考えられますが、一方、現在の社会経済情勢は極めて厳しく、山砂利採取跡地のまちづくりや第二名神自動車道についても現段階では不透明な状況にあります。

このため、箱物施設は最小限に止め、将来の環境変化や時代のニーズに弾力的に対応できる計画にするとともに、育て、成長発展する公園という視点で計画されることが望まれます。



イメージ写真：モエレ沼公園（札幌）



イメージ図：

競技型スポーツの観戦も
可能となる芝生スタンド
を持った芝生球技場



イメージ写真：

宝ヶ池球技場のベンチスタ
ンドと芝生スタンド



イメージ図：『小布施ハイウェイオアシス』
 (出典：小布施町ハイウェイオアシスホームページ)